

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070001401		
法人名	有限会社 セブレコーポレーション		
事業所名	グループホーム おおさかの里		
所在地	〒824-0225 福岡県京都郡みやこ町犀川大坂506-1 Tel. 0930-42-0801		
自己評価作成日	令和03年05月20日	評価結果確定日	令和03年07月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel. 093-582-0294		
訪問調査日	令和03年06月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大坂山の麓、緑に囲まれ、鳥のさえずりが聞こえる、自然の恵みに囲まれた、グループホームです。庭には紫陽花など四季折々の木や花が植えられています。畑では豆やトマトなど四季折々の野菜を利用者さんと職員と一緒に収穫しています。地域の馴染みの方が入所して昔話に花を咲かせたり、若いころ生活していた雰囲気や車椅子で入所した方が老人車や自由に動けるようになったり、入所した時より若返りお元気になる方もいます。協力病院の矢津内科消化器科クリニックと契約し最後まで穏やかに過ごしていただき看取りもさせていただいています。体調の変化があるとその都度院長を交えサービス担当者会議を開き、きめ細かく介護を行います。利用者さんも職員も楽しく笑いの絶えないホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「おおさかの里」は、自然豊かな大坂山の麓に15年前に開設した定員9名のグループホームである。外庭には季節の花が咲き、畑には野菜が育ち、鳥のさえずりを聴きながら、庭の散歩や畑の手入れ等、利用者と職員はのんびりとした里山暮らしを共に楽しんでいる。看護師の資格を持つ職員が多く、提携医療機関と訪問看護師との連携で24時間安心の医療体制が整い、看取りも行っている。人柄の良い職員が、楽しく長く働き、コロナ禍で面会や外出、地域交流を控える中、テラスでお弁当を食べたり、季節の行事を全力で楽しむ等、利用者が生き生きと活気ある毎日を過ごせるよう、アイデアを出し合い取り組んでいる。「おおさかの里便り」やニュースレターの発行、フェイスブックに動画をアップする等、伝える事に力を入れて取り組み、家族の安心と認知症の啓発に繋げ、家族や地域からの信頼も厚い、グループホーム「おおさかの里」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「のんびり、ゆっくり、地域とともに」の理念を職員全体で共有し、一人一人の体調に合わせた介護を通じて笑いの絶えない生活を支援している。	理念、「のんびり、ゆっくり、地域とともに」を見やすい場所に掲示し、職員一人ひとりが理念を意識して日々の介護サービスに取り組んでいる。また、地域密着型事業所として地域との信頼関係を築き、協力体制を整え、地域から頼りにされている事業所である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染が拡大したため緊急事態宣言が発令された。福寿会への参加、相談員、訪問、習字など地域との交流は中止している。	新型コロナウイルス対策の為、これまで行っていた福寿会への参加や小学生、保育園児との交流、習字の先生や相談員の訪問も中止となっている。ニュースレターの配布やフェイスブックを使って、ホームの様子を積極的に発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ニュースレターを発行して、回覧板と一緒に地域の家に配布したり、フェイスブックに動画をアップしてホームの様子を知っていただき、認知症への理解を深めて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度会議を開催していたがコロナ禍のため書面開催になっている。地域の方には直接お会いした時に現状を報告したり、入所者の方の説明をしたりして、意見をうかがっている。	新型コロナウイルス対策の為、書面開催となっている。ホームの現状や活動内容・行事予定、身体拘束、ホームでのコロナ対策、研修等について書面で報告している。委員からの意見や要望は電話等で聴き取り、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課にサービス内容など電話やメールで連絡を取り説明を受けている。コロナウイルスに対する国や県からの支援についての新しい情報についても常にメールで情報を得ている。	疑問点があれば、その都度介護保険課に尋ね、説明を受けている。新型コロナウイルスに関する支援等についても、常にメールで最新の情報を得ている。新型コロナウイルス感染対策以前は、「みやこ町事業者連絡協議会」に参加して情報を共有し、行政や他事業所との交流が行われていたが、現在は休止している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中玄関、リビング、廊下は施錠していない。ミーティングにおいて、細かく身体拘束となる場合について周知を図っている。必要な場合はその必要性を個人記録に記入している。	身体拘束についてはミーティングの中で話し合い、具体的な事例を挙げて確認し、職員間の周知を図っている。2ヶ月毎の運営推進会議（現在は書面での開催）の中で、必ず身体拘束について議題に挙げて報告を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍のため研修に参加することが出来ないが、ミーティングで介護上困っていることや悩んでいることがあれば職員間で話し合い、解決策を見つめるようにする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍のため、講演会、勉強会の参加は自粛中。必要なお家族がいれば説明し相談に乗っている。	自立支援事業や成年後見制度の資料やパンフレットを用意し、必要時には制度の内容や申請方法を説明し、関係機関と連携して制度を活用できるように支援している。現在、制度を利用している方はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、時間をかけて十分な説明をしている。解約時改定時には封書でお知らせしたり、電話やメールをしている。必要時には直接お会いして説明をしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に一度運営推進会議を開きご家族の意見をお聞きしていたがコロナ禍のため書面開催となっている。ご家族が来所した時に直接お聞きしたりメールで受けたりしている。玄関にはご意見箱、ご意見記入用紙を設置している。	2ヶ月毎の運営推進会議や家族の面会時に、家族の意見や要望を聴き取っていたが、コロナ禍の為、現在は電話やメールでのコミュニケーションに努め、意見や要望を聴いて運営に反映している。「おおさかの里便り」「おおさかの里アルバム」、「ニュースレター」を発行し、ホームの様子を積極的に伝えている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングを行い、全員出席していただき日頃感じていること、細かいことなど積極的に意見を出してもらっている。	ミーティングを毎月開催している。職員が話しやすい雰囲気作りを心掛け、意見や要望、アイデア等が活発に出されている。出された意見は全員で検討し、ホーム運営や業務改善に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は副代表から勤務時などの状態を聞いている。悩み事など個別に話を聞いて本人の希望に沿うようにしている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員それぞれの生活を尊重し、希望の勤務時間を聞き調節している。それぞれの特技を生かし、行事の料理を担当したり、写真のお便りを作る担当をしてもらったりしている。資格を取るための時間を考慮して勤務時間を決めている。	職員の募集は、年齢や性別、資格の制限はなく、人柄や意欲的な人材を優先している。採用後は、職員の特技や能力を活かした役割分担や希望に配慮した勤務体制等、働きやすい環境づくりに取り組み、職員は定着している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	一人一人の人権を尊重することに重点を置き、日々の生活を支援するように務めている。	ミーティングや申し送りの中で、利用者の人権を尊重する介護サービスについて話し合い、利用者の尊厳のある暮らしの支援を目指し、日々取り組んでいる。また、法人理念に尊厳を守ることを掲げ、職員は常に理念を意識して利用者一人ひとりの心を大切に、人生を尊重し、その人らしい暮らしが出来るよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の職種や利用者さんの状態などを考慮し、オンラインによる研修をホームで受けている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都医師会在宅医療介護連携支援センター主催による看取りの勉強会をオンラインで行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくりと時間をかけて穏やかな雰囲気作りに努めている。本人の生活歴、病歴、家族関係を聞き、本人の希望に沿って生活していただく。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に訪問して信頼関係を築くようにしている。以前のニュースレターをお渡しし、介護や看取りに対する考え方を理解していただく。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ミーティングで本人と家族の状況を職員間で話し合い、何が必要かを見極め対応している。病院受診、オレンジカフェ参加などにも対応していたがオレンジカフェは自粛している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事、入浴、排せつなど本人の出来ること寄り添って支援し、日常生活で出来ることを引き出し、掃除洗濯物干し、たたみなどを一緒に行っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方には毎月行事などを写真とともに報告し、日常生活を理解していただくようにしている。介護に変化があった時にはその都度電話やメールでお知らせしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため制限しているが、窓越しにて面会をして頂き、写真撮影をして居室に展示している。	コロナ禍以前は、家族が利用者の友人と一緒に面会に訪れたり、兄弟の家に利用者と外出し、行きつけの理・美容院や法事に出かける等、馴染みの関係を大切に取り組んできたが、現在は自粛している。家族の窓越しの面会時に写真を撮って居室に飾る等、大切な人との関係が途切れないよう努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性を尊重して利用者同士の関わり合いが行えるようにしている。食事の時のテーブルの席は時々変えて色々な入所者さんと会話できるようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍のため家族会での食事会などはできない。元入所者のご家族に毎月ニュースレターを持って行き体調をお聞きしたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者一人一人に担当職員をきめている。居室の整理整頓が主であるが、担当者がよりかかわり、生活に寄り添えるように努めている。	担当職員は、日々の関わりの中から、利用者の思いや希望を引き出し、職員間で情報を共有し、介護サービスに活かせるように取り組んでいる。また、自分の意思を伝えることが難しい利用者には、家族やベテラン職員に相談して、過去のアセスメントを振り返り、本人本位に検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にゆっくり時間を取り、家族からの情報を得ている。また本人からも昔の話などをゆっくり聞いている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方はケース記録に日中夜間を通して記録している。いつもと違う言動や心身状態の変化など、気づいたことを記録するようにしている。一人一人のケースを毎日話し合い、適切な介護ができるようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時、本人、家族、必要な関係者と話し合いを持ち介護計画を作成している。その後は職員の情報収集の報告や介護上の問題点を話し合い介護計画に役立てている。	利用者、家族の意見や要望、心配な事を聴き取り、担当者会議の中で職員間で意見交換し、利用者本位の介護計画を定期的に作成している。また、利用者の状態変化があった時には、家族と密に連絡を取りながら、関係者で話し合い、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録に記入し、気付いた点や大きな変化は、赤線をひいて介護計画の見直しに役立てている。申し送りノートを全員で確認し、スタッフ全員が同じ介護ができるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の希望や変化に応じ、決まりごとに捕らわれず、その都度、臨機応変に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染対策のため自粛中。本人の出来る事を、スタッフが手伝いながら、自分らしい生活が出来る様支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院、かかりつけ医がある。往診のある医師と連絡がとれている。必要時は夜間休日でも往診をしていただいている。令和3年4月からは、状態の変化があった時は昼夜に関わらずいつでもとびうめネットで報告している。	入居前に、利用者や家族の希望を聞いて主治医を決めている。協力医療機関の医師による往診は、夜間や休日でも可能であり、ホーム看護師と介護職員との連携で24時間安心の医療体制が整っている。また、令和3年4月から、福岡県医師会診療情報ネットワーク「とびうめネット」に登録している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日勤帯では1日最低1名の看護師が勤務し利用者の病状状態を把握し、協力病院、訪問診療へ連絡を取り適切な支援をしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院がある。利用者が入院する際は看護師が付き添い、適切な情報を提供している。退院時も適切な情報交換を行っている。ニュースレターを持っていき関係作りを図っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時看取りを行えること説明し必要時矢津クリニックと契約していただく。体調の変化によりサービス担当者会議を開き、診療および介護の方針を統一し看取りを行っている。	契約時に、利用者や家族に対して、重度化や終末期に向けた方針について説明を行い、了承を得ている。利用者の重度化が進むと、家族や主治医と密に連絡を取りながら方針を確認し、関係者で方針を共有して、看取り支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングで職員全員で初期対応出来るように勉強をしている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的に避難訓練を行っている。地域の方(区長、消防団員)を火災報知器に登録し、連絡が取れる体制作りをしている。職員全員に緊急連絡網やラインにて速やかに連絡を取り行動するようにしている。	非常災害に備えた避難訓練を年2回実施し、通報装置や消火器の使い方を確認し、利用者を避難場所に速やかに誘導出来るよう取り組んでいる。土砂災害の危険地域であることから、大雨の時、避難指示が出された際には、家族に協力をお願いして自宅に避難してもらう等、家族や地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生活歴を理解し、個性を把握するように努めている。	ミーティングや研修の中で、利用者一人ひとりを尊重した介護について話し合い、特に、言葉遣いや対応に注意し、利用者がホームの中で安心して過ごすことができるよう、支援している。また、利用者の個人情報や職員の守秘義務については、管理者が常に職員に説明し、情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いをゆっくり時間をかけて聞き、思いや希望に添えるように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望をまず尋ねるようにしている。(食事を自室でとるかりビングでとるかその都度確認するなど)		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は美容師の方に来ていただいている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の野菜や山菜など皮むき、筋取りをして、一緒に下ごしらえをしていただいている。	敷地内の畑で取れる旬の野菜や差し入れの野菜等を使って作る、職員手作りの美味しい料理を提供している。皮むきや筋取り、土筆の袴取り等を利用者も一緒に行っている。コロナ禍で外食にも出かけられない為、テラスでお弁当を食べながらお花見をする等、気分転換を兼ねた食の支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者さんの状態に合わせてとろみ、きざみ、ミキサー食などで対応している。食事量、水分量をチェックしている。好きな飲み物(コーラなど)を提供している。歯にトラブルのある方は歯科医師に相談し、来所していただいている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの様子を見守り、できない方にはケアをしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人一人の状態に合わせてトイレ誘導をしている。状態に応じ自分で立てる、パンツを上げるが出来るようになるとポータブルトイレ使用、様子を見て、順次トイレ誘導に切り替えている。	職員は利用者の排泄パターンや生活習慣を把握し、利用者の表情や仕草を見守りながら、早めの声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄の支援に取り組んでいる。また、夜間は、利用者の体調や希望を聴きながらトイレ誘導を行い、パットの使用方法について職員間で検討する等、オムツ使用の軽減にも取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く取ってもらい、運動(ラジオ体操など)を行って、予防に努めている。体調に合わせて下剤服用などを調節している。(看護師)		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後に入っていただく。入浴剤などを使用し気分転換を図る。便失禁の時は時間に関係なくシャワー浴等していただく。	利用者の希望や体調に配慮しながら、週2~3回午後からの入浴支援を行なっている。入浴は利用者と職員がゆっくり話が出来ると大切な機会と捉え、コミュニケーションを深め、本音を聴き取っている。入浴を拒む利用者には、時間をずらしたり、職員が代わって声掛けし、それでも難しい場合は足浴や清拭に変更して、無理強いのない入浴支援に取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調に合わせて起床していただく。昼寝など自由にいただいている。体調に合わせてリクライニング車椅子を使用したり、足を上げたりしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用、副作用をインターネットで調べ職員に知らせ確実に服用するように見届けている。服用前に名前、日時を読み上げ確認し、誤薬がないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ユーチューブを見て体操、歌、動物の動画を楽しんでいただいている。塗り絵、作品作り等もみんなでお楽しみながらおこなっていただいている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの外庭で外気浴を行っている。新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、人の密集していない場所を選んで外出している。	コロナ禍で外出が難しくなっているため、自然環境に恵まれた周辺の散歩や外気浴、畑の手入れや収穫を楽しむ等、利用者の気分転換に取り組んでいる。テラスでのランチは、利用者大変好評である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で出来ない方が多い。希望に応じてコーラなど職員が本人に代わり購入している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分から希望される方は多くはない。希望される方は孫とラインでテレビ電話をするときもある。家族からの手紙やプレゼントは本人に渡し、部屋の目につきやすいところに飾ったり、壁に貼ったりしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花、作品(塗り絵など)、写真を玄関やリビングに飾っている。季節ごとにお雛様や兜などに交換し、季節感を感じていただいている。	掃除が行き届いた清潔で明るい室内である。季節の花を生け、観葉植物が良く育ち、季節毎に装飾も変えて、季節の変化が感じられるよう、配慮している。利用者の制作した作品や写真を飾り、温かな雰囲気の共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の状態に応じてソファでの過ごし方、食事時のテーブルの位置などを時々変えて気分転換などを図っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居室で気持ちよく過ごせる様に自宅で使用していた物を配置し、思い出の品、写真などが見やすいように飾っている。外出した時や家族が面会に来た時の一緒に撮った写真も貼っている。花の好きな方は自室に飾ったり、廊下の鉢植えがベッドから見やすい位置に置いたりしている。	利用者が使っていた馴染みの家具や身の回りの物、家族の写真等、大切にしていた物を持ち込んでもらい、利用者が安心して穏やかに過ごせるよう支援している。また、こまめな清掃と換気で、利用者が気持ちよく過ごせる居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりを付けて居室、トイレにはわかりやすい目印をつけている。		